



しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

東証1部 証券コード:6298

事業フィールド



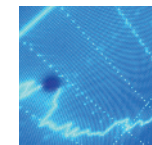
ハードディスク



精密熱処理



ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第50期 中間 ビジネスレポート

2021年4月1日～2021年9月30日

さあ今日も、 ときめきと感動の日々であれ！



代表取締役社長
百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第50期中間ビジネスレポート』をお届けいたします。

当第2四半期における製造業の概況は、コロナ禍による経済活動への制約が一部緩和されたことに伴い、総じて回復基調となりましたが、一方で、依然として中国をはじめとする海外への入国が困難なこと、また、一部部品の入手が困難になってきていることなどにより、先行き不透明な中で推移しました。

その結果、当第2四半期の当社連結業績は、前年対比大幅増益となりました。営業利益716百万円は、直近10年間の中間決算時における営業利益としては最高額であります。業績が後半集中型の当社としましては、これを機に更に回復を加速させたいと存じます。

さて、当社は東証プライム市場入りと、来る2023年の創立50周年に過去最高売上(36,025百万円)・過去最高益(3,676百万円)を更新することを当面の最大の目標と位置付け、全社一丸で取り組んでおります。

創立50周年に向かつての事業環境は、半導体・自動車・5G・医療等の需要が好調に推移しており、当社にとっても追い風が吹いております。引き続き顧客のニーズを捉えた製品を投入するとともに、SDGsの理念に即した量産新製品の開発に果敢に取り組み、2つの大きな目標に向かつて邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

創業理念

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

成長理念

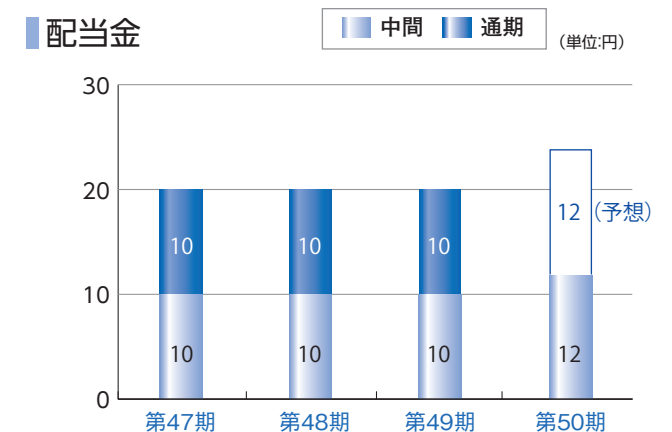
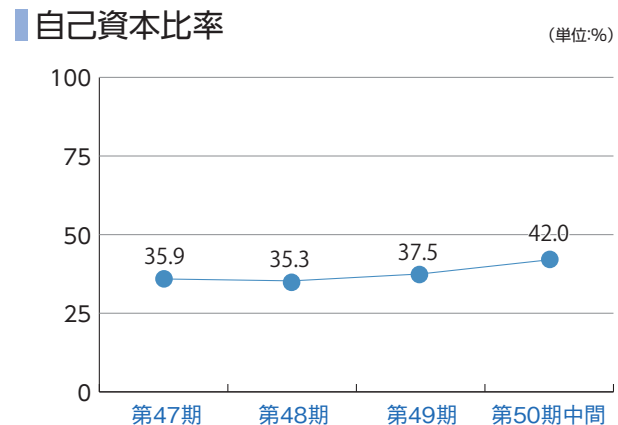
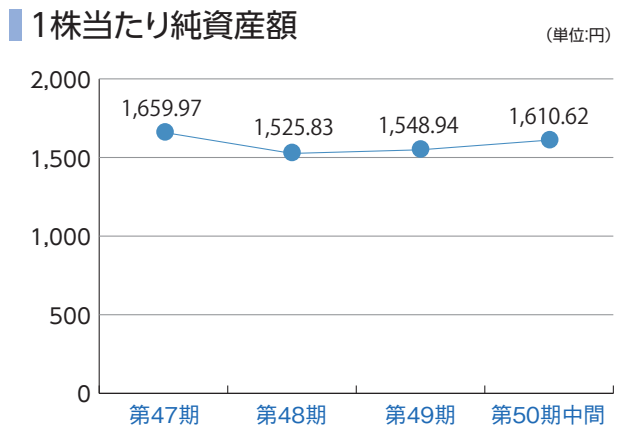
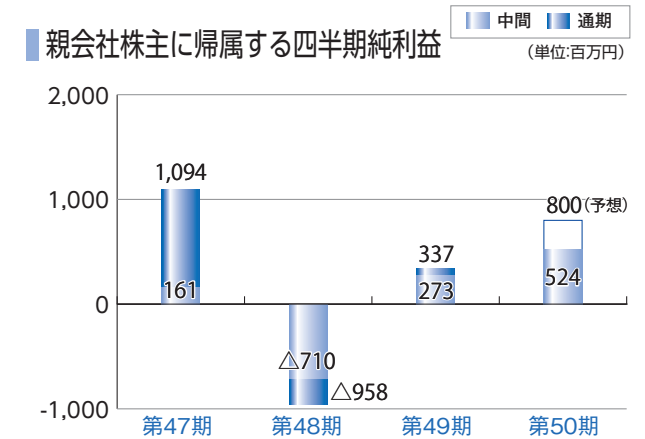
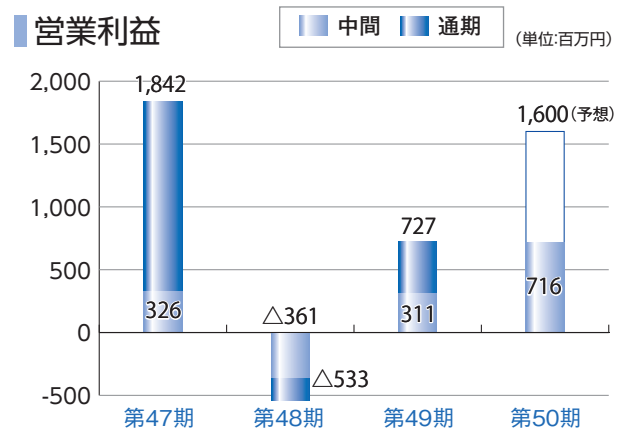
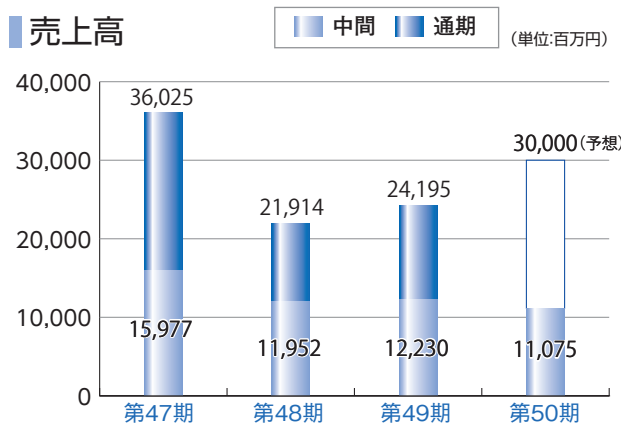
1. 社員の豊かさを追求する(経済的、精神的)
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

究極の理念

～より多く社会に貢献するために～

1. 社員・グループの成長
2. 全員経営・連携と競争
3. SDGs経営の推進
4. 納税額の拡大

	第47期	第48期	第49期	第50期中間	第50期通期(予想)
売上高	36,025百万円	21,914百万円	24,195百万円	11,075百万円	30,000百万円
営業利益又は営業損失(△)	1,842百万円	△361百万円	727百万円	716百万円	1,600百万円
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	1,094百万円	△958百万円	337百万円	524百万円	800百万円
1株当たり純資産額	1,659.97円	1,525.83円	1,548.94円	1,610.62円	—
自己資本比率	35.9%	35.3%	37.5%	42.0%	—
配当金	20円	20円	20円	12円	12円



営業状況

◆ 事業概況

当第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日)における世界経済は、前半は緩やかに持ち直しつつありましたが、後半は新型コロナウイルス変異株の影響でサプライチェーンの乱れ及び稼働制限が強くなり、再び不透明な状況となりました。

当社の属する半導体業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、依然5G、EV、AI、IoT関連の需要がありました。

このような経済状況のもとで、当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と販売に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高110億75百万円(前年同四半期比9.4%減)、営業利益7億

16百万円(同129.9%増)、経常利益7億30百万円(同137.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益5億24百万円(同91.9%増)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当第2四半期連結累計期間における売上高は79百万円減少し、売上原価は55百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ24百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は46百万円増加しております。

◆ 経営の現状と通期見通し

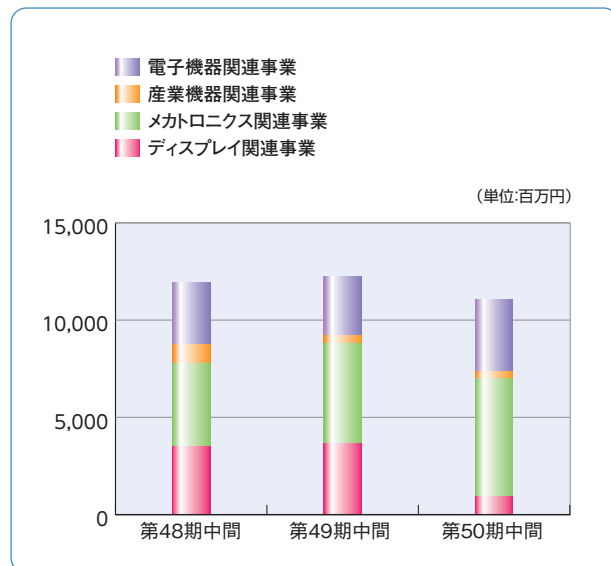
当社グループは2023年5月に創立50周年を迎えるにあたり、持続的な発展を目指し、より強固なグループの構築を進めます。17社あるグループ会社の再編や効率化によるコスト削減を進め、より筋

肉質な会社を目指すとともに、5G関連やAI、IoT、EV、メディカル等、社会で必要とされる新製品の開発に努めてまいります。事業環境は依然不透明な状況にありますが、好調なメカトロニクス関連事業及び電子機器関連事業では引き続き拡大を想定しつつ、一方でディスプレイ関連事業及び産業機器関連事業の改善を図り、更なる成長の加速を目指し、事業の拡大を図ってまいります。

2022年3月期(通期)の連結業績につきましては、売上高300億円、営業利益16億円、経常利益15億円、親会社株主に帰属する当期純利益8億円を予想しております。

セグメント別の状況

セグメント別売上高



ディスプレイ関連事業

主な市場である中国の経済活動再開で停滞していた顧客の生産計画が徐々に動き始めましたが、新型コロナウイルス感染症変異株の影響により稼働制限が強化され、受注動向は後ろ倒しを余儀なくされました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は9億52百万円(前年同四半期比74.1%減)となり、セグメント損失は2億1百万円(前年同四半期はセグメント損失87百万円)となりました。なお、収益会計基準等の適用により売上高が79百万円、セグメント利益が24百万円、それぞれ減少しております。

メカトロニクス関連事業

経済活動再開と強い需要動向により、パワーデバイス向けレーザーアニラ及びスマートフォン向けテーピング装置が好調に推移しました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は60億55百万円(前年同四半期比18.0%増)となり、セグメント利益は6億78百万円(同140.7%増)となりました。

産業機器関連事業

国内向けクリーニング市場は、前年度に引き続きライフスタイルの変化の影響を受けました。中国を中心として展開している海外向けにつきましても同様で、大変厳しい環境となりました。

これらの結果、産業機器関連事業の売上高は3億71百万円(前年同四半期比9.0%減)となり、セグメント損失は49百万円(前年同四半期はセグメント損失78百万円)となりました。

電子機器関連事業

電力会社向け及び人工透析装置が、引き続き安定的に推移しました。

これらの結果、電子機器関連事業の売上高は36億96百万円(前年同四半期比22.4%増)となり、セグメント利益は1億79百万円(同125.8%増)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 2021年9月30日現在	前連結会計年度末 2021年3月31日現在
【資産の部】		
1 流動資産	26,870	29,166
固定資産	8,129	8,341
有形固定資産	6,684	6,739
無形固定資産	236	305
投資その他の資産	1,209	1,296
資産合計	34,999	37,508
【負債の部】		
2 流動負債	12,847	15,388
固定負債	7,403	7,993
負債合計	20,250	23,382
【純資産の部】		
株主資本	14,847	14,316
その他の包括利益累計額	△143	△242
新株予約権	44	51
3 純資産合計	14,749	14,125
負債純資産合計	34,999	37,508

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	前第2四半期累計期間 自 2020年4月1日 至 2020年9月30日
売上高	11,075	12,230
売上原価	8,166	9,790
販売費及び一般管理費	2,193	2,128
営業利益	716	311
営業外収益	97	98
営業外費用	83	102
経常利益	730	307
特別利益	94	47
特別損失	14	4
税金等調整前四半期純利益	810	350
法人税等	285	79
四半期純利益	524	270
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	524	273

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	前第2四半期累計期間 自 2020年4月1日 至 2020年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	566	1,543
投資活動によるキャッシュ・フロー	△54	△166
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,053	1,210
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,492	2,588
現金及び現金同等物の期首残高	9,932	6,450
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,439	9,038

POINT 1 流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は268億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ22億96百万円減少しました。その主な減少要因は、現金及び預金14億92百万円、仕掛品4億86百万円です。

POINT 2 流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は128億47百万円となり、前連結会計年度末に比べ25億41百万円減少しました。その主な減少要因は、短期借入金15億00百万円、前受金6億53百万円です。

POINT 3 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は147億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億23百万円増加しました。その結果、自己資本比率は42.0%となり、1株当たり純資産は1,610円62銭となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金は、5億66百万円の増加(前年同期は15億43百万円の増加)となりました。

これは主に

■プラス要因

- (1) 税金等調整前四半期純利益8億10百万円
- (2) 棚卸資産の減少3億95百万円
- (3) 減価償却費2億59百万円
- (4) 未収消費税等の減少1億89百万円
- (5) 売上債権の減少1億23百万円

■マイナス要因

- (1) 前受金の減少6億54百万円
- (2) 事業整理損失引当金の減少2億円
- (3) 仕入債務の減少1億53百万円

また、投資活動による資金で54百万円減少、財務活動による資金で20億53百万円減少した結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ14億92百万円減少し、84億39百万円となりました。

2022年3月期 中間決算トピックス

■2022年3月期 第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

	売上高		売上総利益			営業利益		自己資本比率	中間配当金
	金額(百万円)	前年比	金額(百万円)	前年比	粗利率	金額(百万円)	前年比		
2022年3月期 第2四半期	11,075	90.6%	2,909	119.2%	26.3%	716	230.2%	42.0%	12.0円
2021年3月期 第2四半期	12,230	—	2,440	—	20.0%	311	—	35.5%	10.0円

1 高水準の営業利益

当第2四半期連結累計期間の営業利益は716百万円となりました。これは、直近10年間の中間決算時における営業利益としては最高額であります。

2 粗利率の向上

当社の課題であった粗利率が当第2四半期連結累計期間で26.3%(第1四半期25.6%、第2四半期26.8%)に向上しました。
今後更なる粗利率の向上を目指し、グループ業務効率化の一環として、2022年10月よりグループ各社の購買部門をホールディングス会社に集約・一元化しました。

3 自己資本比率の向上

当第2四半期連結累計期間の自己資本比率は42.0%となり、2017年3月期以来5期振りに40%台を回復しました。
コロナ借入の返済及び売掛金の回収が進んだことに加え、税引後利益計上に伴う純資産増によるものです。

4 増配

2022年3月期の中間配当金は、前回実績の1株当たり10円から2円増配し、1株当たり12円といたしました。
今後も市場のニーズに合った製品を続々と投入し、利益を通じてより多く社会に貢献してまいりたいと存じます。

会社概要

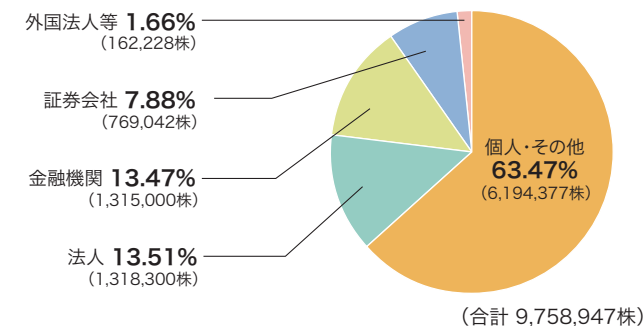
商号	ワイエイシーホールディングス株式会社
英文表示	Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.
本社	東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
設立	1973年5月11日
資本金	2,801百万円
従業員数	30名 (連結846名) (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数		34,388,000株
発行済株式の総数		9,758,947株
当期末現在の株主数		7,211名
個人・その他※	7,061名	6,194,377株
法人	48名	1,318,300株
金融機関	15名	1,315,000株
証券会社	45名	769,042株
外国法人等	42名	162,228株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

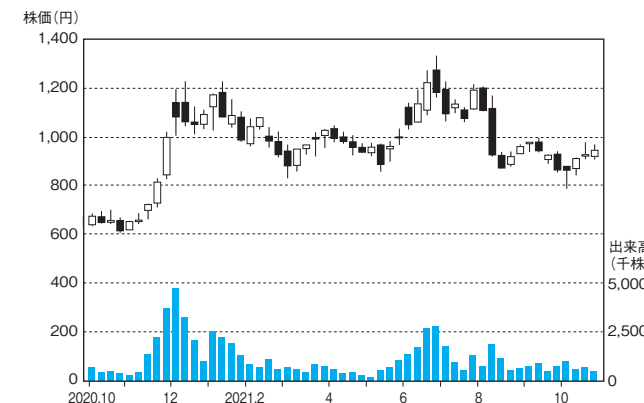
代表取締役社長	百瀬 武文
取締役専務執行役員	伊藤 利彦
取締役常務執行役員	畠山 督
取締役執行役員	西坂 昌伯
取締役	大倉 章裕
取締役	石田 祥二 ※社外取締役
取締役	木船 常康 ※社外取締役
取締役	植木 行雄 ※社外取締役
常勤監査役	辻 慎司
監査役	高田 直規 ※社外監査役
監査役	飯田 哲郎 ※社外監査役
執行役員	麻生 知徳
執行役員	野口 克三

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モモタケ	1,220	12.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	778	7.97
百瀬 武文	319	3.27
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	165	1.69
株式会社SBI証券	154	1.58
東海東京証券株式会社	132	1.35
株式口マン会(従業員持株会)	103	1.06
日本証券金融株式会社	101	1.04
松井証券株式会社	91	0.93
東京海上日動火災保険株式会社	61	0.63

※当社は、自己株式を629,341株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
期末配当金受領株主確定日	3月31日		郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	公 告 の 方 法	電子公告により行います 公告掲載URL https://www.yac.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを
提供しております。

<https://www.yac.co.jp>

または、

で検索ください。

ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107
URL <https://www.yac.co.jp>